

農業・生態系を守るために

危険外来植物にご注意

道ばたに咲くきれいな花の中には、もともと日本になく、種子などが輸入物に混じったり、付着して入り繁殖した「外来植物」があります。外来植物は畑や林に入り込むなど、生態系に悪い影響を与えることがありますので、取扱いには注意が必要です。



望郷ライン沿いに咲き乱れるハルザキヤマガラシ

ハルザキヤマガラシ

ハルザキヤマガラシは、ヨーロッパ原産の帰化植物で、国内各地に広く分布し、春に菜の花に似た黄色い花を咲かせます。繁殖力が旺盛で、在来種を駆逐する可能性があるため、外来生物法で要注意外来生物に指定されています。

【駆除のポイント】 手作業で1本1本引き抜いていく必要があります。ただ、人や自動車の移動に伴って種子が運ばれてくるため、再び生えてくる可能性があります。

ナガミノヒナゲシ

ナガミノヒナゲシ(ナガミヒナゲシ)は、4月から5月頃にかけてオレンジ色の花を咲かせる外来植物です。根と葉からは周辺の植物の生育を強く阻害する成分を含んだ物質が生み出され、在来植物を追いやって生態系を破壊します。近年、急速に広がっているので注意が必要です。

【駆除のポイント】 梅雨ごろに非常に小さな種子が大量に出てきます。1個体から最大で15万粒もの種子が生産されます。種子は白い未熟な状態でも発芽し、繁殖力があるため注意が必要です。

▼外来植物は放置せず、ゴミ袋に入れて処分してください。



ハルザキヤマガラシ(拡大)



ナガミノヒナゲシ(拡大)



ポピーとよく似たナガミノヒナゲシ(入沢付近の県道沿い)